

宮下病院の機能強化の方向性(素案)

資料2-1

I 基本的な考え方

宮下病院の診療圏の現状(推移)

- 診療圏：柳津町、三島町、金山町、昭和村
- 人口推移：H29：8,300人→H37：6,700人→H47：5,200人
- 高齢化率：H29：50.4%（県全体）H29：29.9% → H37：34.5% → H47：37.4%
- 医療機関：宮下病院（昭和44年建築・築47年）は診療圏唯一の病院。
柳津町、金山町、昭和村に国保診療所。
- 介護施設：各町村に特別養護老人ホーム設置

宮下病院を取り巻く環境変化

- ① 人口減少社会が本格化し、医療・介護などの社会保障や行財政サービスなど、様々な分野で従来の水準維持が困難となり、更なる人口流出を引き起こす悪循環に陥る恐れがあります。
- ② 地域医療構想が策定され、会津・南会津区域における、将来の地域医療体制の方向性が明示されました。
 - ◆ 将来あるべき医療提供体制を確保するため、医療機能の分化と連携
 - ◆ 地域包括ケアシステムの構築
 - ◆ 往診、訪問診療等の在宅医療の充実
 - ◆ 2025年の会津・南会津区域の必要病床数は、現在より、急性期が減少し、回復期が増加する見通し。

地域から宮下病院への要望

- ① 都市部病院で手術退院後、在宅復帰に向け、受入できる体制整備
- ② 在宅復帰がスムーズにできるようリハビリの充実。リハビリ専門職の配置
- ③ 宮下病院は、夜間等、救急受入を断らない病院であり、当該地においては、今後も宮下病院の救急対応が必要

現在、宮下病院では

救急搬送受入（H28：85件）、時間外患者受入（H28：524人）、在宅医療の提供（H28：訪問診療69件、訪問看護127件）やリハビリ医療など、環境変化等に対応できるよう可能な限り取り組んでいる。

今後の方向性

宮下病院は、高度・専門的な医療機関、診療所、介護施設等と連携、協力を前提にした上で、病院が最大限効果を発揮できる機能強化を図り、診療圏内の住民の方の健康を今後ともしっかりと支えとともに、地域づくりに貢献する役割を果たしていく必要がある。

II 機能強化の方向性(概要)

◆ 環境変化等に対応した機能充実

1 救急医療等の確保

「救急協力病院」として、必要な医療機能や病床を確保するとともに、地域の医療機関等と連携を図り救急医療・時間外診療に対応し、地域から信頼され愛される病院を目指します。

2 公的診療所等への診療応援

「へき地医療拠点病院」として、今後とも地域の公的診療所等へ医師派遣を行い、地域住民の診療にあたります。

3 リハビリ機能の充実

急性期病院退院後、より安定的な在宅復帰や早期回復につながるよう、リハビリテーションの充実を図っていきます。

4 在宅医療の提供

宮下病院を退院した患者さんへの訪問診療や訪問看護により継続的なケアを行います。

5 健康づくりの支援

健康指標の悪化が継続していることから、健康診断や、町村と連携した出前講座等を通じて、運動機能の低下を予防する取組や健康づくりの啓発を行います。

6 認知症への対応（H29.4～）

診療圏内の『認知症初期集中支援チーム』に参画し、医療面の支援を行い、認知症の方々の早期受診や地域での生活支援につなげます。

7 医師の確保

宮下病院に勤務することが医師としてのキャリアアップにつながる仕組みを構築し、医師の安定的な確保に努めます。

8 地域づくりへの参画（地域との協働）

地域医療の役割をしっかりと担っていくとともに、地域と共に考え・協働した「地域づくり」にチャレンジします。

<イメージ1：地域づくりラボ>

病院スタッフが有する「専門的知識」や、人的ネットワークを活かし、
診療圏に「ラボ（研究・協議の場）」機能を加え、地域づくりの役割を担います。